



飯館村長泥地区で再生利用事業(花の栽培)の視察

今年、東日本大震災から10年を迎えます。
お亡くなりになられた方々のご冥福を改めてお祈りするとともに、
今もなお、不自由な暮らしを続けられていらっしゃる皆さまに、
心からお見舞いを申し上げます。

この本は、福島の復興に尽力されている方や、
環境再生に色々な立場で関わられた方の体験をお聞きして、1冊にまとめたものです。
快くインタビューに応じてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

100人の方のお話を読んで、これは全国民に読んでもらいたい、そう思いました。
文章はもちろんですが、写真も本当に素晴らしい。
とてもいい表情で、一人一人、皆さんに会いたくなる。

自分自身がこの10年間決して忘れることのない、あの震災、原発事故から、
福島復興への強い想いに、今一度火を灯してくれたような、そんな気がしました。
だから、今まで、福島の復興に関わってきた人にとっても、
そうでない人にとっても、何かを感じるきっかけになる一冊だと思います。

環境大臣としては、100人のうち何人かも言われていた、
「今の福島の状況をもっと発信してもらいたい」ということに対し、
もう一段ギアを入れてやらなければいけないという責任、
そして、30年内の県外最終処分法の約束を必ず実現するという決意を新たにしました。

この中に復興庁で福島の復興に長年携わってこられた岡本全勝さんの言葉があります。
福島を支援します、というのは言うてはいけない。
「支援ではなく、責任を果たすでしょ」。
津波被災地での復興は支援でも、原発被災地の復興は責務です。
これは、忘れてはならない基本です、と。

環境省として、内閣の一員として、
また一政治家としても、「責任」を果たしてまいります。

環境大臣 兼 内閣府特命担当大臣(原子力防災)

小永進